

1 研究主題

研究主題 「自己を見つめ、自他共に認め高め合う道徳教育の探求」
～9年間の学びと家庭・地域との連携を通して～
《3年次》

2 研究主題設定の背景

(1) 学校教育が果たすべき役割

文部科学省は、平成27年3月27日に学校教育法施行規則及び小学校指導要領一部改正を行い、道徳教育の目標を「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこととする」と改めた。また、学校における道徳の時間は、学習指導要領に示された内容を体系的に学ぶという教科に共通する側面と、人格全体に関わる力を育成する側面の総合的な充実を図ることが課題とされていることから「特別の教科道徳」（「道徳科」）となり、内容の改善や指導方法の工夫が求められている。

このような中、学校教育に関わる我々の果たすべき役割とは、「よりよく生きるための基盤となる道徳性」を養うため、効果的な道徳教育を実現し、自律的に道徳的実践のできる子どもたちを育成することである。

平成30年4月1日からの「特別の教科道徳」の全面実施に向け、学校は道徳教育とは何かを改めて見つめ直し、適切な指導改善に努めなければならない。

(2) 本校における2年間（平成27・28年度）の研究の経過

本校は平成27・28年度文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受け、「道徳の授業」「体験活動の充実」「家庭・地域との連携」の3つを、道徳教育の構造の柱として研究を進めてきた。

2年間の研究の成果として、「道徳の授業」では、発問の内容や学び合う活動を取り入れた学習の進め方、発達段階に応じた表現活動、子供の思考の流れに合わせた学習過程や評価の方法が明らかになってきた。また、「体験活動の充実」では、縦割り活動の有効性や広がり、振り返りの方法などが明らかになった。「地域や家庭との連携」では、双方の思いや願いを共有することができた。

しかし、テーマ発問のより有効的な内容や、学び合う活動での考えの深まり、自己評価の内容の検討、家庭・地域と授業との関連など課題も見えてきた。

これらの成果・課題をもとにさらに研究を進め、相互の関連性も明らかにしていく必要がある。

(3) 本校の学校目標との関連

本校では、「元気いっぱい 笑顔で 学び合う」児童の育成を学校教育目標に掲げ、生き抜く力の育成を目指して日々の教育活動を展開している。児童がお互いのよさを認め合い、共に活動にチャレンジしたり、学び合ったりしながら、一人一人が自分に自信をもって行動できることを目指している。このような児童を育てるために、道徳科の授業のあり方だけでなく、豊かな体験活動や中学校、地域・家庭との連携のあり方について研究を進めていくことは、学校教育目標の実現に向け、大変意義深いことである。

(4) 目指す児童像

平成27年度に児童の実態を探るべく、全校児童を対象にアンケート調査を行った。その結果、「良いと思うことを行い、悪いと思うことはしない」や「自分には良いところがあると思う」「学校の決まりを守っている」の項目について、あてはまると回答した児童が少なかった。その一方で「命は大切なものだと思う」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人には親切にしたい」という項目については、あてはまると回答した児童が多かった。

また、職員を対象としたアンケートでも、「善悪の判断」や「規則の尊重」「友だちとの関わり」について不十分だと感じている結果が出た。

これらのことから、自己との関わりの中で、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、一人一人の存在を大切だとする源としての「生命尊重」をベースに、「善悪の判断、自律、自由と責任」や「規則の尊重」、「親切、思いやり」「感謝」を重点的に指導する内容項目とし、教育活動全体

において具体的な指導を行い、自己肯定感の高い児童を育てていきたい。

3 研究目標

○道徳性を育てるために、道徳科の指導を中心にして、体験活動や中学校・家庭・地域との連携の効果的な在り方を探る。

4 研究仮説

○道徳教育において、必要な指導方法や連携、活動等を明らかにして、相互に関連するような活動を教育課程に組み込めば、道徳性が育つであろう。

5 研究内容

(1) 学年部会での取組（低、中、高、特別支援）

ア 授業実践

(ア) 全校研究授業・・・各学年部より1名（全員による授業研究会、講師招聘による指導助言）

(イ) 学年部研究授業・・・全校研以外の先生（学年部＋参観希望者＋研究主任＋副主任、参観者による授業研究会）

(ウ) 研究主任提案授業・・・研究主任（山内）（全員による授業研究会、講師招聘による指導助言）

イ 道徳年間計画及び別葉の更新

(2) 専門部会での取組

ア「自分づくり部」

(ア) 学級リレーション活動の提案。

(イ) アンケートやQ-Uによる児童の実態調査と分析。

(ウ) 心の時間の計画。

(エ) 道徳コーナー（廊下）の企画運営。

イ「仲間づくり部」

(ア) 縦割り活動の提案、小中連携活動の提案。

(イ) 体験活動の振り返りの工夫。

(ウ) 集会活動

(エ) ぽかぽかカード活動

ウ「学びづくり部」

(ア) 指導方法、学習指導案、実践資料のまとめ方、評価、振り返り。

(イ) 道徳ファイルと振り返り、全体計画、別葉の更新提案。

(ウ) 教室内道徳コーナーの設置。

(エ) 地域人材の発掘。情報発信

(3) 「小中連携推進会議」

ア 参加者・・・小学校・中学校共に校長、教頭、教務、研究主任

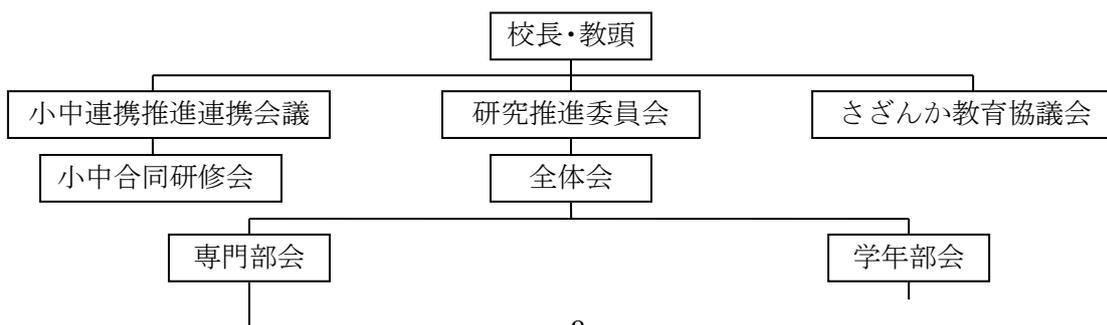
イ 目的・・・小中連携の推進、小中連携活動等の提案

(4) 「地域連携会議」（さざんか教育協議会）

ア 参加者・・・小学校・中学校共に校長、教頭、研究主任

イ 目的・・・地域連携の推進、地域連携活動等の提案

6 研究組織





7 研究方法

- (1) 研究推進委員会、全体会を開き、研究の方向性を決定する。各部で提案を行い、共通理解、共通実践を図る。
- (2) 講師を招聘し、理論研究を学び、実践研究に生かす。
- (3) 先進校への視察や研究発表会への参観を行って、情報収集し、授業実践に生かす。
- (4) 児童の道徳性や学びに対する実態調査を行い、児童の変容を明らかにする。
- (5) 全校授業研究会、学年部ごとの部授業研究会を行って、仮説の検証、授業実践力の向上、実践資料の蓄積を行う。
- (6) 年度末に研究紀要を作成。研究内容について共通理解し、成果と課題を次年度につなげる。
- (7) 使用した教材や資料等を保管し、次年度の実践に生かす。

8 研究計画

(1) 年次研究計画

1年次(平成27年度)	2年次(平成28年度)	3年次(平成29年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題設定と共通理解 ・研究計画・組織作り ・各学年部の目標設定 ・指導案形式の検討 ・仮説に基づく授業実践と研究協議 ・授業の柱の明確化・開発 (発問・学び合う活動・学習過程・評価) ・体験活動の工夫 (縦割り活動等の展開) ・地域・家庭との連携の開発 ・小中連携の開発 ・環境整備 ・児童の実態把握 ・研究の考察と評価 ・次年度の方向性の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究仮説の洗い直し ・研究の概要・方向性の決定 ・各学年部の目標の洗い直し ・仮説に基づく授業実践と研究協議 ・授業の柱の明確化・開発 (板書・表現活動) ・授業の柱の深化 (発問・学び合う活動・学習過程・評価) ・体験活動の工夫 (縦割り活動等の充実) ・地域・家庭との連携の展開 ・小中連携の展開 ・環境の見直し ・児童の実態把握 ・研究の考察と評価 ・次年度の方向性の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究仮説の洗い直し ・仮説に基づく授業実践と研究協議 ・授業の柱の発展 (発問・学び合う活動・学習過程・評価) ・授業の柱の深化 (板書・表現活動) ・体験活動の工夫 (縦割り活動等の発展) ・地域・家庭との連携の充実 ・小中連携の発展 ・環境の見直し ・児童の実態把握 ・研究の考察と評価 ・次年度の方向性の決定

(2) 年間研究計画

月	日(曜日)	研究計画	研究内容
4	17(月)	・第1回小中連携会議	
5	15(月)	・第2回小中連携会議	・研究の概要・方向性・組織について ・研究授業計画
	17(水)	・第1回研究推進委員会	
	31(水)	・第1回全体会 ・学年部会	
6	6(火)	・中学校道徳授業参観	・中学校道徳公開授業参観 ・研究主任による提案授業 授業者 山内ともこ 4年1組 講師 大隈 章子指導主事(東部教育事務所) ・授業研究会の方法、指導案の提案、参観の観点等
	12(月)	・第2回研究推進委員会	
	14(水)	・第2回全体会 研究主任提案授業	
	17(土)	・小中合同校内研	
	()	・第3回小中連携会議	
	28(水)	・学年部会	
	30(金)	・学校訪問	
7	()	・第4回小中連携会議	・研究授業計画 ・指導案検討等
	12(水)	・学年部会	
8	()	・第3回研究推進委員会	・研究授業計画 ・指導案検討等
	3(木)	・第1回小中合同研修会	

	21(月) 30(水)	・第5回小中連携会議 ・学年部会	
9	() 11(月) 13(水)	・第6回小中連携会議 ・第3回研究推進委員会 ・第3回全体会 全校研究授業 ・学年部会	・指導案検討等 ・学年部提案授業()部 授業者 ()年組 講師 大隈 章子指導主事(東部教育事務所)
10	11(水) 16(月)	・第4回全体会 全校研究授業 ・第7回小中連携会議 ・学年部会	・学年部提案授業()部 授業者 ()年組 講師 大隈 章子指導主事(東部教育事務所)
11	13(月) 15(水) 20(月)	・第4回研究推進委員会 ・第5回全体会 全校研究授業 ・第8回小中連携会議 ・学年部会	・学年部提案授業()部 授業者 ()年組 講師 大隈 章子指導主事(東部教育事務所)
12	13(水) 18(月)	・学年部会 ・第9回小中連携会議	・研究のまとめ ・研究の振り返り
1	15(月) 17(水)	・第10回小中連携会議 ・第5回研究推進委員会 ・第6回全体会 ・学年部会	・研究のまとめ(成果と課題) ・各専門部のまとめ(成果と課題) ・研究物(データ・教材等)の整理と保管
2	19(月) 21(水)	・第11回小中連携会議 ・第6回研究推進委員会 ・第7回全体会	・次年度研究の方向性と検討 ・次年度の研究の方向性決定 ・研究紀要の完成
3	19(月)	・第12回小中連携会議	・年間指導計画及び別様の更新

9 平成27・28年度の研究からの引継ぎ事項

(1) 学びタイム

- ・学び合う活動を「学びタイム」と名付け、全教科等において柔軟に取り入れていく。
- ・「学びタイムで使いたい言葉」を低・中・高学年の発達段階に応じて決め、教室内に掲示する。
- ・話型から離れて自分の言葉で表現できるように、発達段階に応じた話し合いの段階を踏まえて指導する。(平成28年度研究紀要P9・10参照)
- ・教師の役割と教師の思考の流れについて明らかにする。

(2) 道徳ファイル

- ・道徳の学習で用いた資料やワークシート、内容項目に関連した他教科等での学習の資料、体験活動の振り返り等は、道徳ファイルにとじていく。
- ・毎月、心の時間にそれらを振り返ることで、児童の中に道徳的価値が育っていることを実感でき、自分自身のよさを見つめ直すことにもつながっている。(平成28年度研究紀要P186参照)
- ・教師は、道徳ファイルをポートフォリオによる評価として役立てることができる。
- ・本年度は、道徳ノートの活用も検討してみようか。

(3) 道徳コーナー

- ・道徳の学びを振り返るものとして、教室内に道徳コーナーをつくり、1年間を通した掲示物や毎月1枚作成する授業の振り返りの掲示物を貼り、児童がいつでも学びの見通しをもったり、振り返ったりできるようにしている。(平成28年度研究紀要P157参照)
- ・毎月1枚作成する振り返りの掲示物は、本年度はその大きさを半分にし、毎回作成する。内容は、道徳的価値と教材の場面絵のみ、または板書のみとすることを検討しようか。